

3-4 東北大学所蔵の外邦図の利用状況と公開に向けての課題

境田清隆・村山良之（東北大）

・渡辺信孝（仙台都市総合研究機構）

I はじめに

東北大学理学部地理学教室が所蔵する外邦図は、1945年9月東北帝国大学理学部地理学講座（当時）の田中館秀三教授が、東京市ヶ谷の参謀本部に出向き閉業処理にあっていた参謀の許可を得て、仙台市片平丁の東北大学理学部に搬入したもので、搬入枚数は9万枚を超える。1995年10月の理学部標本館の開館を機に、教室をあげてこの整理作業にあたり、データベースを作成し、理学部自然史標本館で一般向けに展示するとともに、研究者に公開されてきた（田村，2000）。ここではこれまでの公開実績と今後の公開に関わる課題について報告する。

II 公開の現況

(1) 一般展示公開

仙台市青葉山の理学部隣接地にある自然史標本館（現在の正式名称は東北大学総合学術博物館）の2階展示室に、15図幅の外邦図がその由來說明と索引地図とともに展示公開されている。自然史標本館には多数の貴重な化石および鉱物標本が展示され、仙台市営バスの観光ルートにもなっていることから、年間入館者数は1万人を超える。入館者に対して実施されたアンケート結果をみると、化石・鉱物標本と地図との違和感を訴える声がある半面、その歴史資料的価値を評価する声も高く、展示方法に対する工夫を期待する声も多かった。

(2) 収蔵

外邦図は自然史標本館3階収蔵室の地図キャビネットに1図幅ずつ収納され、複数枚あるものは移動式書架のダンボール箱約500箱に収蔵されている。複数枚あるものについては1997～98年に国土地理

院・岐阜県図書館・京都大学へ委譲あるいは交換を行い、現在の収蔵数は12210種（図幅）、総数は実物68216枚、コピー4147枚である。現在地は学内研究者・学生の閲覧・利用のアクセスの点では優れているが、スペース及び保管条件は必ずしも好適とはいえない。

(3) 閲覧・利用

1996年に「利用規定」を作成し、学術研究・教育の目的に限って部外者にも公開している。利用希望者は利用申請書を提出し、「外邦図目録」等を利用して外邦図を閲覧できる。また申請すれば館外への一時貸出および複写も可能である。主としてマンパワーの問題から、学術研究・教育目的以外の一般的な利用者には国会図書館・岐阜県図書館の利用を勧めている（船戸，2000）。1996年以降、利用実績は54件（うち研究目的は40件）であった。

III 今後の課題

理学部自然史標本館は1998年4月に東北大学総合学術博物館に改組され、仙台市青葉区川内地区に2005年度の新規開館を予定している。東北大学理学部地理学教室からのアクセスの点では現在の場所が優れているが、保管条件の点では総合学術博物館にすべて移動して改善を図ることが望ましい。また一般入館者の増大が予想されることから、土地利用・土地被覆の変化などのテーマ性をもたせた展示や、外邦図のデジタル化に対応していく計画であるが、一方では歴史を経た現物に直接触れる形態も検討している。

データベース「外邦図目録」は1996年の作成以降もたびたび改訂され（渡辺，1998）、測量・発行の機関および年を記載した増補版が2003年3月に印刷し

刊行される予定である。しかしこの電子媒体を（ホームページなどで）全面公開することには多少の危惧があり、現在検討中である。

外邦図の研究は、製作過程の解明（測量方法・表現方法など）、土地利用の経年変化など、多くの可能性に満ちている。また大縮尺地形図の未整備ないし未公表地域における外邦図の活用は、取り扱いに注意を払いながらも、むしろ積極的に進めるべきであろうと考える。

文 献

- 田村俊和（2000）東北大学理学部自然史標本館所蔵の外邦図，地図情報，20（3），7-10.
- 船戸忠幸（2000）岐阜県図書館・世界分布図センター，地図情報，20（1），13-15.
- 渡辺信孝（1998）東北大学で所蔵している外邦図とそのデータベースの作成，季刊地理学，50，154-156.